

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	歴史的町並みにおける生活の様相への訪問客のまなざしと彼らの町並み評価の関係
Title(English)	Relationship between visitors' gaze on aspects of local lives and their evaluations of a historical district
著者(和文)	直井岳人
Author(English)	Taketo Naoi
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第10274号, 授与年月日:2016年6月30日, 学位の種別:課程博士, 審査員:十代田 朗,樋口 洋一郎,大佛 俊泰,斎藤 潮,中村 芳樹
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第10274号, Conferred date:2016/6/30, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	論文要旨
Type(English)	Summary

論文要旨

THESIS SUMMARY

専攻： Department of	情報環境学	専攻	申請学位 (専攻分野)： 博士 (工学) Academic Degree Requested Doctor of
学生氏名： Student's Name	直井 岳人		指導教員 (主)： 十代田 朗 Academic Advisor(main)
			指導教員 (副)： Academic Advisor(sub)

要旨 (和文 2000 字程度)

Thesis Summary (approx.2000 Japanese Characters)

本研究では、歴史的町並みにおける地元の生活の様相への訪問客のまなざしと、訪問客の訪問地に対する心理的評価との関係を明らかにすることを目的としており、7章で構成されている。

第1章では、研究の学術的背景として、歴史的町並みで、訪れる価値が顕著な歴史的かつ観光地的様相であるフロントとより世俗的なバックとしての様相が近接又は混在する可能性を示し、地元の生活の様相への訪問客のまなざしが生じる可能性とその影響について、訪問客の町並みに対する印象、学びと交流欲求の充足、ロイヤルティの観点から論じている。実務的背景としては、歴史的建物の内部の活用の余地を残す重要伝統的建造物群保存地区制度により歴史的町並みの生活の様相に訪問客が触れる可能性があることを説明し、更に、訪問客にとっての魅力としての地元の生活の様相を重視する傾向が観光まちづくりの分野で見られることを説明している。又、研究の枠組みとしては、建築・環境心理学の人間-環境系の知見に立脚することを示し、従来人間-環境系の観光研究と比べて実際の訪問客間の差異に注目する点、従来の観光研究と比べて非日常性が弱いであろう地元の生活の様相を対象とする点、従来の観光まちづくり分野で検証されなかった、訪問客の視点からの生活の様相の意味を検証する点に独自性があることを示している。

第2, 3章では、歴史的町並みの様相へのまなざしを時系列的にとらえ、更に歴史的町並み全体の特性に焦点を当てる調査を示す。第2章では歴史的町並みの様相に対する社会的まなざしの時系列変化を分析する為、岐阜県高山市の歴史的町並みに関する旅行雑誌記事中の頻出語とその時代区分との関係性を定量的に分析した。その結果、歴史的町並みへの社会的注目点が建築物、伝統、歴史的物事といったものから人の行動へ移っていることが示された。第3章では、訪問客から見た歴史的町並みの特性を明らかにする為、高山市への外国人観光客を対象とした質問票調査を実施し、古い町並みを含む市内の主要な観光対象から、魅力的だと思った場所(魅力空間)と地元生活を感じられると思った場所(地元空間)を選び、その印象を尺度上で評定してもらった。その結果、「魅力空間」と「地元空間」のそれぞれとして捉えられるスポットには違いがあるが、歴史的町並み、観光空間としての特性が強いながらも生活空間としての特性も持っている空間であることが示唆された。又、「魅力空間」「地元空間」の双方において、「古い」、「観光地的」な雰囲気が良い印象に繋がる点では共通していることが分かり、高山市の観光対象全体が「観光地空間」としての評価基準で見られている可能性が示された。

第4, 5, 6章では、訪問客の個々の様相へのまなざしに焦点を当てた研究を示している。第4章と第6章における調査では、岐阜県高山市への日本人訪問客を対象に質問票調査を実施し、第4章における調査では、歴史的町並みにおいて訪問客がまなざしを向ける様相を自由記述回答から抽出している。又、第5章では、訪問客がまなざしを向ける地元の生活の様相と、住民から見たそれが異なる可能性に鑑み、第4章で抽出した地元の生活の様相が、「どの程度観光客向けか/地元の生活をあらわしているか」を住民に尺度評定してもらい、評定値を基に様相を分類し、各様相の評定値と住民の居住地の特性の関係を検証した。その結果、訪問客がまなざしを向ける様相には、訪問客にとっての非日常性が強くない様相が含まれること、住民から見たこれらの様相には「訪問客向けの地元の生活の様相」と「訪問客向けではない地元の生活の様相」があることが示唆された。第6章における調査では、地元の生活の様相に当たる様相へのまなざしの訪問客間の個人差と彼らの町並みの評価との関係を検証し、歴史的町並みの、観光地的側面、人が暮らす場としての側面に幅広くまなざしを向けることが、訪問客の持つ、町並みの「調和」、「独自性」、「学びの機会」、「交流の機会」に関する好ましい評価と、他者への訪問の推奨に繋がる可能性が示された。

第7章では、各章の内容をまとめ、総合的な考察を行うと主に、今後の課題を述べた。

本研究は、訪問客の印象、経験、ロイヤルティの観点から地元の生活の様相への訪問客のまなざしの重要性を示し、人の暮らしを活かした観光振興への示唆を提供すると共に、「観光地化した地元空間」という概念の重要性を示し、観光地におけるフロント・バックの枠組みに新たな視点を提供するという学術的意義を持つと考える。

備考：論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

Note : Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).

(博士課程)
Doctoral Program

論文要旨

THESIS SUMMARY

専攻： 情報環境学 専攻
Department of
学生氏名： 直井 岳人
Student's Name

申請学位 (専攻分野)： 博士 (工学)
Academic Degree Requested Doctor of
指導教員 (主)： 十代田 朗
Academic Advisor(main)
指導教員 (副)：
Academic Advisor(sub)

要旨 (英文 300 語程度)

Thesis Summary (approx.300 English Words)

This study aims to elucidate visitors' gaze on the aspects of local lives in a historical district and their evaluation of the district in consideration of the importance of researching visitors' gaze on relatively mundane local aspects in back regions of destinations as compared to more prominent and touristic front stages as well as of the recent focus on local lives as attractions for visitors in the field of community-based tourism. First, the results of the content analysis of travel magazine articles about the target district in Takayama City, Gifu prefecture, imply that historical districts are depicted not only as architectures but also in relation with human activities, and that focuses in Takayama City seem to have shifted from historical elements to walking. The results of the subsequent questionnaire survey to visitors point to the co-existence of the district's characteristics as touristic spaces and ones as spaces for local lives. The aspects of local lives in the district were then elicited with use of a questionnaire survey to visitors, and the elicited aspects were found to be classified into the aspects for visitors and the ones that are not for visitors in the results of the subsequent survey to locals. Finally, visitors' gaze on multi-faceted aspects, including touristic and local aspects, was suggested to lead to their more favourable evaluations of the district in light of senses of harmony and uniqueness, perceived opportunities of learning and interactions and their intention to recommend others to visit the district. Managerially speaking, the results of this study highlight the importance of visitors' gaze on the local aspects of a historical district for tourism promotion. Theoretically, the results point to the concept of touristic local aspects, which offers a new perspective regarding the framework of front and back regions in tourism destinations.

備考：論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

Note: Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1 copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).